

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今を輝く」をモットーに共同生活においてお互いに助け合いながら楽しい暮らし、一人ひとりが趣味や特技を生かし生きがいの持てる日常を支援し、地域の中に溶け込んだ生活を送っている。	地域の方、ボランティアグループ、そば打ち会などいつでも受け入れていて、積極的に地域との交流を図っている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用と同時に施設の指針の説明を受けている。また、毎朝、全体の朝礼時、お昼のミーティング時に理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	誰にでもご理解頂けるよう玄関に掲示している。	家族との交流会などを通して地域密着型の意義を理解して頂く。また、地域の方が気軽にホームに寄って頂けるような雰囲気作りを心がけている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩コースで日々会っている事で顔馴染みになり気軽に話ができる関係になっている。	季節の作物の活かしや栗畑での栗拾いに参加したり近所の方が草花などを植えてくれている事で交流が持っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域では少しずつグループホームの存在意義が理解されてきてはいるが、自治会・老人会の行事などに積極的に参加していない。施設全体では地域交流は頻繁に行っている。	○ 散歩時、休憩場所として地元の公民館を使わせて頂いているので、掃除やゴミ拾いなど年に数回行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元の老人会との交流をお願いしましたが会費や人間関係などの問題もあり入会はできませんでした。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果をありのままに受け止め、改善に向けてさらに質の良いサービスに取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告・行事報告を行い、その他利用者や家族の要望・意見を伺ったり、役場や民生委員の方などに助言を頂きサービスの向上に活かしている。また、ホーム側の悩みなども相談し話合っている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では町の行事についてや実地指導などで様々な助言を頂き連携を図っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な研修会には積極的に参加し、権利擁護事業や成年後見制度については理解できている。また、利用者1名が上三川町社協の成年後見制度を利用している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律に関しては資料などで学んでいる。ホームとして職員は精神的・身体的虐待は絶対に行わないことを認識している。	○	研修会、勉強会などに積極的に参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書や運営規程を説明し、利用者・家族共に理解され納得した後契約を結ぶようにしている。また、契約時にはホーム側の意向、利用者・家族の要望も聞き入れ、お互いに理解、納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の不満・要望などは、運営推進会議を中心に自由に発言して頂き、職員はそれに対して話し合いの場を持ち解決・実現に向けていく。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や請求書と一緒に写真と手紙を同封し、ホームでの生活についての状況報告・行事等についてお伝えしている。 金銭管理については1ヶ月に一度出納帳のコピーを渡しご理解頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関しては玄関に意見箱を置き、自由に投書出来るよう配慮している。また運営推進会議等で色々なご意見を伺い、報告・改善に努めている。	家族の面会時は職員が積極的に家族と関わるようにして本音が話せるよう心がける。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度定例会議を開催している。また、これとは別に月に1度の法人全体の職員会議があり、いずれも運営者が出席している。	年に2回、管理者と職員との面接があり、職員の気持ちを活かせる機会を設けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事故や急変時など突発的な受診について即座に対応出来るよう人員に関しては余裕のある配置を行っている。	同一敷地の中に本体の特養があり、専門職も多いためグループホームの職員以外でも協力体制がとれている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>年2回運営者との面接で本人の希望や人間関係の悩みなど聞き、職員間の風通しを良くし、チームワークをとっている。また、異動に関しては本人の希望を極力聞くようにしている。</p>	<p>グループホームの異動は本人の希望以外はあまりなく、常に馴染みの関係を作るようにしている。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時に新人教育を受け、また、その後は主任・リーダーに付いて勉強していく。3ヶ月はゆっくりと一人ひとりに合った教育に取り組んでいる。</p>	<p>法人内には9つの委員会があり、それぞれが勉強できる機会を設けている。また、その中でも知識向上委員会での取り組みは一人ひとりの知識や技術を働きながら学べるように企画している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>老施協の中のグループホーム部会に入会したり、栃木県グループホーム協会に入会してその中でネットワーク作りをして意見を交換している。近隣グループホームと積極的に交換している。</p>	<p>とちぎ認知症介護研修センターへの協力として外部実習生を受け入れてお互いに勉強させて頂いている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人が契約しているスポーツジムの利用、委員会による腰痛体操、腰痛予防の勉強会、休憩室の充実、リフレッシュ休暇の充実などがある。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回上司との面接、まじめに働く人を正しく評価するシステム、個人の目標設定と自己評価、上司の評価を融合。</p>	<p>年2回、自己申告書の提出、それを参考に上司との面接をして正しく評価できるシステム。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームをじっくりと見学して頂いた上で不安な点・困っている点等を親身になって聞く事で信頼関係を築いていけるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来るだけ家族の立場に立って話を伺う事で不安を少しでも和らげ、思いを理解するようにしている。また、家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状等を伺い、出来る限り希望に添えるよう努めている。グループホームより本人に適したサービスがある場合は、他の相談者を紹介している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前にまず本人・家族に見学に来て頂き、ホームの雰囲気を感じてもらいながら感想や質問等を聞き、こういった所があるという事を理解して頂く。その後、本人が気に入ればお試しとして日中他入居者様と過ごしてもらい馴染めるかどうか見てみる。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様と家族同様の接し方をする事で、互いを理解し、楽しい時は一緒に笑い、苦しい時は共に支えあう関係が築けている。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所してからも家族との関係は大切にしていきたいので、面会以外にも受診も家族に行ってもらう事で、一緒に過ごせる機会を作っている。 また、ホームの行事にも参加して頂き、喜怒哀楽を共感してもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族にも面会や電話をお願いしたり、行事への参加を呼びかけている。	○	家族に対して入居者様から誕生日やお祝い事に電話やプレゼントといったサプライズと一緒に考え、より良い関係がずっと保てるように取り組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様との話の中で挙げた人については電話で話をしたり、遊びに来て頂いたり関係が途切れる事の無いよう支援している。	○	故郷や思い出のある場所等が遠方であっても諦めず家族に協力してもらい実現していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活の中で生活歴・性格等から人間関係がうまくいかずトラブルになる事も有るが、出来る限り皆で協力しあって、お互いに思いやりを持った声掛け・関わりが出来るよう努めている。	○	同じ趣味や目的を持った人同士の交流をより密になるよう支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了の理由にもよるが長期入院の方に対してはお見舞いに行ったり、在宅に戻られた方については家族に手紙を書いたり、電話で近況を伺ったり等して関係を続けるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に居た時と同じ生活が出来るよう本人に意向を聞き個々のペースで過ごして頂いてる。困難な場合は家族と相談し、最良の生活が送ってもらえるよう努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報をもとに、これ迄の生活歴(職業、趣味、昔の暮らしぶり)等把握し、サービスに役立てている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	昔どのように家で過ごしていたのか家族にアドバイスを頂き、生活の中で個々の能力が発揮出来る、その人らしさが出せるよう援助している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望ややりがいのある事を第一に考え、その後家族にホームでの生活についてご理解頂き相談しながら本人にとって楽しく安全に生活してもらえよう介護計画を作成している。	○
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者本人の状態が大きく変わるようであれば計画の見直しを行っている。必要に応じてカンファレンスを開き、全員の意見を聞き計画書に反映させている。	
			入居者様、家族、職員の3者のみでなくもっと色々な方と話し合いの場を持ち意味のある計画を作成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にその日の出来事や健康面(食事・排泄)や健康状態など記録し、勤務前に目を通し情報の共有している。気になった点はミーティング等でその都度話し合いをし、介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養やデイサービス等すぐ隣にある為、合同で行事等を行い交流に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームで地域交流としてそば打ちや歌や踊りのボランティア、また、趣味に合わせたサークル活動を行っている。	○	警察や消防署などと今後協力がとれるようにしていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところそのような支援は行っていない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所者1名が成年後年制度を利用しているため、社会福祉協議会の中にある地域包括支援センターと協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が希望している病院で受診をして頂いている。受診ノートの利用により主治医にホームでの状況提供し、連携を図っている。</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>ホームでの生活において認知症の症状や行動に関して適切な助言を頂きケアに努めている。</p>	<p>グループホーム内に1名のパートの看護師がいるので勤務内での助言は出来ている。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>同法人内の看護師の協力を得て、健康・医療両面において相談したり、指示をもらったりしている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>本人の状態については医師と家族との間で話し合ってもらい、ホーム側としては退院後、安心して過ごしてもらえるよう準備している。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者が元気なうちに本人の希望、または家族の希望に添えるよう職員間で意志の統一を図る。主治医との協力がかせがないため繰り返し話し合っている。</p>	<p>母体の特養ではすでに終末期（ターミナル）の看取りケアを行っているため、グループホームでも看取りの指針などを参考に本人、家族の希望に添えるよう協力していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化、終末期を迎える利用者の精神面、介護面ではすでに職員間で勉強しており、あとはハード面でベッドや浴室を重度化対応に改良していく。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームで過ごした生活状況・身体状況を中心に可能な限りの状況提供をし、新しい環境によって受けるダメージを少しでも軽く出来るよう努めている。		開所4年となり、かなりの重度化された利用者もおり、すでに家族の希望で母体の特養に住み替えた利用者2名がいるが、グループホームの利用者が職員と共に時に面会に来て精神面でフォローしている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応等不快感を与えないように心掛けている。排泄や居室に入る際は、プライバシーの配慮に十分気をつけている。個人情報の記録等については人目につかない所に保管している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思を大切にして思いを上手く引き出せるような声掛けや雰囲気を作るようにしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味・特技を活かして頂けるよう出来る限り普段の生活においては一人一人の時間を大切にしている。散歩や外出等でなるべく希望に添うよう支援している。		誕生月には利用者と職員2人きりでその方の希望に添った場所へ出かけてゆったりとした1日を過ごしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容室、または化粧等その人らしさ・こだわりを大切に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設でお金を預かっているが家族が了承している人は、お小遣いとは別に本人が管理している。スーパーへの買い物や外食など状況に応じ自己にて支払いして頂くこともある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日などは出る限り散歩をしたり、車にて買い物や日帰り旅行など外へ出る機会を多く設けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1度、一泊温泉旅行を企画している。また、個別では誕生日外出という企画があり、職員と一対一で可能な範囲で一日好きな場所、好きな事が出来るよう支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方に関しては自由に家族と連絡を取って頂いている。家族へ要望がある場合は用件によって本人が直接掛けている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、ゆっくりと利用者様と過ごしてもらえるよう心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の意思を尊重し、自由に生活して頂けるよう危険のない程度に見守りながら拘束のないケアに努めている。	○	法人には身体拘束事故防止委員会があり、身体面、精神面でも絶対拘束をしないというケアに法人全体で取り組んでいる。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、どの場所においてもかぎを掛けることなく誰もが自由に入出りできるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中に関しては職員間で連携を図り、入居者様の所在や様子を日々の行動パターンと照らし合わせ把握し、夜に関しては随時巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品の保管場所については鍵をかけ、刃物等に関しては入居者様の目につかない場所におくことで危険の無いよう取り組んでいる		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険性のある方には常時付き添いし、事故のないよう努めている。事故がおきてしまった場合は報告書などから原因を追究し、今後の対応について話し合い同じ事が起こらぬよう取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時、全職員が速やかに対応出来るよう看護師の協力のもと、日々訓練を行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上防災委員会の協力のもと、あらゆる場合を想定し、避難訓練をおこなっている。地域の方への協力は特に要請していない。	○	運営推進会議でとりあげ今後地域の方への協力も検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒の危険性のある人、また発作や誤嚥等個人に起こりうるリスクについて、面会時に家族に説明したり電話などで状況を報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人記録や申し送りにより職員同士が情報を共有し状況に応じて速やかに家族へ連絡している。また、適宜看護師へ報告し助言を頂いている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬の説明書を個人記録のファイルに綴っておき、日々目を通すことにより全職員が薬に関して把握している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動、また10時のおやつ時に牛乳を提供したり、栄養士の助言のもと、便秘予防の食材や調理方法など取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声掛け・介助を行っている。就寝前に義歯を預かり管理している。拒否のある方についてはうがいを行っている。	○	本人に任せている方に関しては磨き忘れが有ったりするので注意して毎食後できるように取り組みたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつ・食事中は常に水分・食事摂取量に目を配り普段より摂取量の少ない人に関しては記録に残して状況に応じた対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	あらゆる感染症に対応した予防マニュアルがあり、実行している。インフルエンザについては利用者も職員も毎年予防接種をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫・収納庫を確認し、食材の安全性に留意する。調理器具に関しては毎日消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には表札を設置し、通路にはたくさんの植物を置いている。また、イスや手すりを設置し靴が履きやすい工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあわせてホールや壁などに飾りを置き居心地の良い空間に目で楽しんで頂いている。日中はクラシックなど心落ち着く音楽を流し、ホールの天窓からは明るく気持ちの良い日差しが入るよう工夫してある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットに一つずつ掘りごたつがあり、テレビを見たり横になったりとおくつろいで頂いている。また、ソファで将棋や新聞を読んだり過ごされている方もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が心の底から喜んで頂けるよう一人ひとりの夢や希望を誕生日外出やサプライズ企画などでできる限り叶えている。